２　授業づくりの基本
(2) １時間の授業の組立て方

授業の構成

児童生徒の学習活動と教師の指導内容の双方が具体的にイメージできるように、流れに沿って１時間の授業を組み立てる。このとき、「本時の目標」（どのような資質・能力を育成するのか）と、「学習活動」（どのような学習活動を行うのか）と、「評価」（どのような学習状況であれば目標が達成できたとするのか）の三つが相互に関連し、そのつながりが明確になっているようにする。

１時間の授業は、一般的には、「導入」、「展開」、「まとめ」の三つの過程で組み立てる場合が多い。「学習課題をつかむ」、「調べる」、「考えをまとめる」等、学校独自の区切り方や文言を設定する場合もある。過程を設定する際には、児童生徒の立場から、授業全体を見通して実際の学習活動の流れを想定する。

【導入】

学習意欲の向上

学習指導要領では、「児童生徒が見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を、計画的に取り入れるように工夫すること。」と明記されている。児童生徒が学ぶことに興味や関心をもつように、授業のはじめに児童生徒が本時の学習の目標と流れをはっきりと自覚的に捉えられるようにする。

前時の振り返り

学習目標を捉えさせるためには、前時やこれまでの学習について振り返ることが必要である。本時に関連して、どのようなことをどのような方法で学習してきたかを確認し、それと関連させることで、本時の目標と学習活動を具体的に想起できるようにする。

目標の確認

本時の目標を達成するための学習課題を、児童生徒向けの言葉で分かりやすく提示したものが、「めあて」、「ねらい」、「課題」等である。いずれも、教師から提示して説明したり、前時の振り返りから児童生徒自身に考えさせたりするなど、自覚的に捉えられるように指導する。

学習活動の見通し

本時にどのような学習活動を、どのような手順で行うのか児童生徒自身が見通しをもてるようにする。単元（教材）のはじめに立てた学習計画を確かめたり、これまでの経験をもとに児童生徒自身に方法や手順を考えさせたりするなど、児童生徒が主体的に学習に取り組めるように学習指導を進める。

【展開】

学習形態の工夫

本時の目標を達成するための学習活動を展開する部分である。児童生徒が教師の説明を聞いたり、個人やグループで学習活動に取り組んだり、学級全体で互いの考えを交流したりするなど、いくつかの学習活動により構成される。

児童生徒が学習課題を捉え、学習活動の見通しをもって主体的に活動するためには、様々な学習形態の工夫が必要である。その形態で、何をどのような目的で行うのかを、児童生徒が具体的に理解できるようにするとともに、十分な活動時間を設定することや、児童生徒が教師に頼らず自分の力で活動できるよう手順や進め方を事前に十分指導しておくこと等、ていねいな手立てを講じておくことが大切である。

個に応じた指導
安全等への配慮

個に応じた指導については、児童生徒の実態に即して具体的な手立てを準備し、ユニバーサルデザインの概念を取り入れることも重要である（本編Ｐ75 Ⅳ－５－(2) 「京都府における特別支援教育」参照）。また、保健衛生、事故防止、安全管理、準備・片付け等についても、具体的に想定し、留意点を明確にしておく。

【まとめ】

目標に照らした児童生徒の振り返る活動と教師のまとめ

振り返る活動とは、本時の学習活動を振り返り、児童生徒が自身の学びや変容を自覚的に捉えたり、互いに認め合ったりする学習活動である。

具体的な学習活動としては、本時の授業の振り返りをノートやワークシート等に記述した後、学級全体やグループで簡単に交流すること等が多く行われている。また、学習の成果について観点を明記した表やカード等を工夫し、自己評価や相互評価を行わせることも考えられる。

振り返りの観点が、本時の目標に照らして明確に示されていることが重要である。単なる感想や、学習内容の再確認に終わることなく、児童生徒自身が、何をどう学び、何ができるようになったのか、自身の学びや変容を自覚的に捉えられるように工夫し、教師が本時のまとめをすることとともに指導と評価につなげる。

次時の予告

次時の学習内容等を予告することで、単元（教材）全体の見通しをもち、主体的に学習に取り組めるようにする。

《参考資料》
□「生活習慣・学習習慣の改善を進める実践推進ガイドライン」(京都府教育委員会　平成22年３月)
□「学習指導案ハンドブック」(京都府総合教育センター　令和３年３月)
□「特別支援学級の授業づくりガイド」(京都府総合教育センター　平成28年３月)